

# ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6  
<http://www.chubuh.johas.go.jp/>

TEL: 052-652-5511  
FAX: 052-653-3533

## 回復期系病棟の導入について



院長 加藤 文彦



日頃は当院の病診連携・病病連携にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。  
御存知のとおり、各都道府県で地域医療構想が策定され、その達成に向けた取組が求められているところ です。

当地域が含まれる「名古屋・尾張中部構想区域」は既存病床数：約22,000床、病院数：137、有床診療所：130を有するマンモス構想区域です。平成29年7月11日に愛知県医師会館にて「名古屋・尾張中部圏域 地域医療構想検討会」が開催され、平成37年までに高度急性期・急性期病床を約15,000から約10,000床に減床し、回復期病床を約2,000床から約7,500床に増床することが求められました。

一方、平成26年度の診療報酬改定にて「地域包括ケア病棟」が設定され、更に平成28年度には7対1入院基本料の要件が厳格化されたことにより、市内の急性期病院の中には「回復期病棟」を導入する施設が散見されるようになってきました。

当院でも、これらの点を踏まえ、かつ地域から当院に求められている急性期医療をより効率的に行っていくために、平成28年度以後様々な検討を重ねた結果、回復期機能を有する病棟を設置することに致しました。

設置にあたっては、当院の強みであり、地域から求められている医療でもある、脊髄損傷・脊髄障害のリハビリテーションと整形外科慢性疾患手術（脊椎脊髄・下肢人工関節）の実績を踏まえ、現在、複数の病棟に分散している急性期治療を終えて在宅に移行する患者さんや、他の医療機関への転院待ちの患者さんを集約することを主目的とした「回復期リハビリテーション病棟」を導入することとしております。

当然のことながら、これらの疾患のポスト・アキュートをこの院内「回復期リハビリテーション病棟」のみで賄うことは到底不可能であり、地域の「回復期リハビリテーション病院」等との病病・病診連携はこれまで通り必須と考えております。

また、平成30年度の診療報酬改定によっては、更なる病床機能変更も視野に入れつつ、まずは地域から求められている急性期医療をより効率的、かつ確実にやっていくことを目指しております。

今後とも御理解・御支援の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 内視鏡検査の現状について

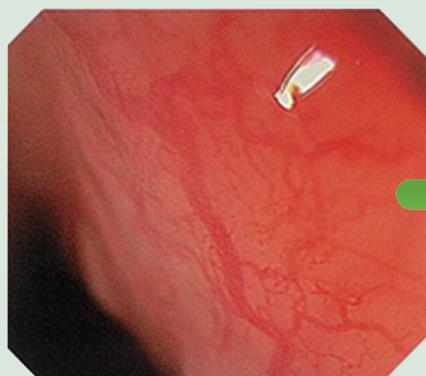
第三消化器内科部長 宿輪 和孝



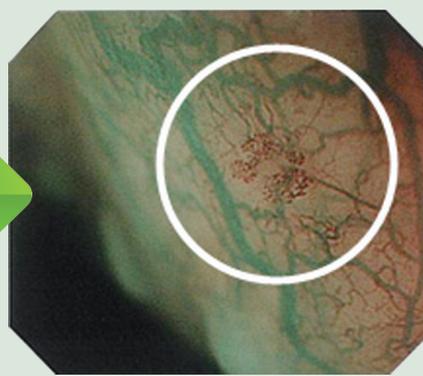
この度、平成29年4月に消化器内科第三部長を拝命致しました宿輪和孝と申します。私は平成12年に産業医科大学を卒業し、平成14年から平成16年にかけて中部ろうさい病院で消化器内科医として指導を受け、他病院での勤務を経て平成25年から二度目の赴任で戻ってまいりました。

以前と比べ、内視鏡検査数がかかなり増加しており（平成28年度、上部消化管内視鏡3,932件、下部消化管内視鏡1,737件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影187件）、患者さんを紹介していただく近隣の医療機関の諸先生方の御協力あってのことと感謝しております。消化器症状を主訴に受診された患者さんで、当日食事を摂取されていなければ当日の上部消化管検査は可能ですし、下部消化管内視鏡検査については、地域医療連携室を通して検査を予約していただければ、事前に前処置薬の下剤を当院から手配してスムーズに検査できるようにいたしますので、今後も検査のみの依頼を含め御紹介いただけたらと思います。

内視鏡検査に関しては、増え続ける消化器の癌に対し、小さな病変を早期に発見し治療することの重要性が高まる中、従来の光では観察しにくかった小さな病変をより観察しやすくするための技術が進歩しております。例えば、「光デジタルによる画像強調」を用いた狭帯域光観察（NBI=Narrow Band Imaging）を行うことで早期癌の発見が可能となっており、当院でも積極的に取り入れております。治療に関しても、早期の食道癌、胃癌に対する粘膜下層剥離術や、胆嚢、膵臓などの癌に対する超音波内視鏡、穿刺吸引細胞診など、最新の医療も行っておりますので、御紹介お待ちしております。今後ますます地域医療に貢献できるよう精進していく所存ですので、よろしく願いいたします。



食道の通常光観察画像



狭帯域光観察画像

# 顎変形症への外科的矯正治療について

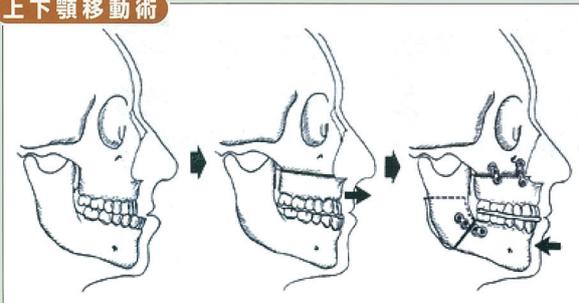
第二歯科口腔外科部長 鶴迫 伸一



平素よりお世話になり誠に有難うございます。このたび平成29年4月より第二歯科口腔外科部長として着任いたしました鶴迫伸一と申します。私は平成5年に鹿児島大学を卒業後、名古屋大学、愛知県がんセンター、金沢医科大学を経て平成14年から聖霊病院歯科口腔外科部長として勤務し、地域医療機関と連携し、病診連携を基盤とした診療を行ってまいりました。診療内容は手術、入院が必要となる口腔外科疾患が対象ですが、その多くは埋伏智歯の抜歯などの小手術です。埋伏智歯は叢生、智歯周囲炎、う蝕等の原因となるため抜歯適応となり年間約300件の抜歯を行っておりますが、10～20歳代の方が多く、複数の智歯抜歯は、術中に不安や苦痛がないよう静脈内鎮静下に行い、術後疼痛や後出血で困らないよう翌朝まで入院管理いたします。

また、私の専門は顎変形症の外科的矯正治療で、地域の矯正専門医の先生方からご紹介いただき、年間約50件の顎矯正手術を行っております。顎変形症は上下顎骨の不調和により咬合不全を生じる疾患ですが、症状が軽度の場合、最近ではミニスクリューやプレートなどのTemporary Anchorage Device (TAD) を利用した矯正治療の適応になる場合もあり、各種TADの設置を局所麻酔下に年間約40件行っております。顎骨の不調和が大きい場合には顎矯正手術の適応になります。患者さんのご希望を伺い、矯正医と外科医で治療計画を立て、半年～1年半の術前歯列矯正の後に顎矯正手術を行います。手術は全身麻酔下に口内法で行い、上顎はLeFort I型骨切り術、下顎は下顎枝矢状分割術(SSRO)の適応になることが多く、骨片はチタン製ミニプレートで固定します。手術後は約5日間の顎間固定を行い、その間は経口流動食となります。顎間固定解除後は開口訓練を行い、日常生活に支障のない状態で退院となります。顎矯正手術は手術書にも非常に困難と記載されてきた手術ですが、安全に行うための手術機器の開発、手術手技の改良により標準化され、国内でも年間約3,000例の手術が行われております。また、顎矯正手術は矯正治療も含めて健康保険が適応できます。うけ口、お顔のゆがみ、噛み合わせの不具合、顎関節症など、顎変形症の症状は様々ですが、気になるような症状がございましたらお気軽にご相談いただければ幸いです。

上下顎移動術



上顎にLeFort I型骨切り術、下顎に下顎枝矢状分割術を適用

術前の側貌



術後の側貌



外科的矯正治療によって咬合とともに容貌も改善する

出典：社団法人日本口腔外科学会

## 地域医療連携室だより

去る8月31日（木）、当院2階講堂において、地域の先生方を対象とした「夏季病診連携セミナー」を開催しました。

今回は「前立腺癌」をテーマとして、当院高木康治泌尿器科部長より、①前立腺癌の疫学、②病態と症状、③治療等について講演させていただきました。（日本医師会生涯教育単位：65排尿障害（尿失禁・排尿困難）1単位認定）ご参加いただいた先生方から、前立腺癌の治療方法の選択、臨床診断に関する積極的なご質問もいただき、盛況のうちに終了しました。

次回は平成30年2月3日（土）に、上前津ローズコートホテルにて「冬季病診連携セミナー」の開催を予定しており、講演テーマ等の詳細については決まり次第ご案内させていただきます。セミナー終了後に地域の先生方との交流を目的とした懇親会の開催も予定しております。今後も地域の先生方の臨床上のお役に立てるテーマでセミナーを開催してまいりますので、是非ご参加賜りますようお願いいたします。

### 夏季病診連携セミナー

「前立腺癌について」高木康治泌尿器科部長



### 医師交代

#### ☆退職

（平成29年6月30日付け）

井上 太郎 整形外科医師

竹林 三喜子 外科医師

（平成29年8月31日付け）

寺島 照雄 第五整形外科部長

佐野 壘 耳鼻咽喉科副部長

（平成29年10月15日付け）

溝口 麻子 糖尿病・内分泌内科医師

#### ☆採用

（平成29年7月1日付け）

西村 元伸 外科医師

（平成29年10月1日付け）

落合 聡史 整形外科医師

#### ☆補職

（平成29年7月1日付け）

長野 美子 小児科部長

岩田 誠子 第二小児科部長

松本 慎二郎 神経内科副部長

### 当院の理念

納得、安心、そして未来へ

### 当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

#### ☎地域医療連携室

（平日 8：15～19：30）

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室 長：坂口 憲史（副院長）

連携課長：藤田 実

事務担当：峯垣 知広・今関 信夫・

金井 久実